

## 川島小学校統廃合問題に関する地元懇談会議事録

### 【日時】

令和4年7月19日（火）

開会 午後7時00分

閉会 午後9時15分

### 【会場】

川島小学校 体育館

### 【出席者】

10名

#### （辰野町関係者）

辰野町長 武居 保男

辰野町副町長 山田 勝己

教育長 宮澤 和徳

#### （事務局関係）

総務課長 加藤 恒男

こども課長 小澤 靖一

総務課課長補佐

兼秘書室長 高倉 健一郎

まちづくり政策課長 三浦 秀治

まちづくり政策課課長補佐 高津 稔

学校教育係長 翠川 俊一

学校教育係 宮澤 司

### 【参加者】

31名

### 【傍聴者】

15名

## 1. 開会

### 【加藤総務課長】

こんばんは。ご多忙の所お集まりいただきまして、ありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまより川島小学校統廃合問題に関する地元懇談会を始めてまいりたいと思います。私が本日の進行役をつとめさせていただく役場総務課の加藤恒男と申します。次第に沿って進めさせていただきますのでどうぞよろしくお願い致します。

## 2. あいさつ（町長）

### 【武居町長】

皆様、こんばんは。

本日川島地区在住の皆様、川島小学校通学児童の保護者の皆様を対象とした地元懇談会を開催したところ、ご多忙の中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。傍聴の皆様にも感謝申し上げます。

川島小学校については「隣接する他校と統合」が、現在の町と教育委員会の統一した方針案です。

本日に至るまで、多くの方から「川島小学校を残して欲しい」との要望をいただきましたが、「川島小学校は良い学校であること。残せるものならば残したい」という思いは、町も教育委員会も同じです。

保護者や地域の皆さんのご理解ご協力の下で、先生方や教育委員会が良い教育を行っていることを多くの皆様に評価いただいていますし、地域にとっても大切な学校を残したいと考えるお気持ちも当然だと思います。

一方で「子どもたちや地域の将来を考えると統合もやむを得ない」との気持ちも多くの方が抱いているのも事実で、その両方の気持ちを持たれている方が大半ではないでしょうか。

昨年の地区説明会の後、会場では発言ができなかったが、そうした思いがあることを直接打ち明けていただいた方が何人かおられました。

以前、私は「この問題が地域を分断している」とお話したこともありましたが、賛成か反対かといった形で分けられない大変複雑な問題であったと今は痛感しております。

それ故、「学校を残したい」という保護者や川島地区の皆さんの気持ちは、あえて変えていただく必要はございませんし、町も教育委員会も皆さんを説得するといった考えは持っておりません。

それでも、現在の児童数で学校を存続していくことは、公立の小学校として、また、児童にとって大きな問題があると考えて苦渋の選択をした次第です。

学校の配置換え・統合に関しては、方針を決めてすぐに実施できるものではなく、数年間の準備が必要です。

このため、この12月議会で議案を提出し、この問題に対して、町や教育委員会と一緒に取り組んでこられた、現在の町議会議員の皆さんに最終判断を仰ぐことにしました。

本日は、これに先立ち、町や教育委員会が考えている川島小学校の統廃合が必要としている理由を改めてご説明するとともに、川島地区活性化について町が考えている案も提示致します。

その上で、本日まで出席の皆様から忌憚のないご意見、お考えをお聞きしたいと思しますので、どうぞ宜しくお願い致します。

### 3. 説明事項

#### (1) 川島小学校が今後抱える課題～統廃合の必要性について～

##### ①人口動態とこれに伴う子どもの学びと育ちへの懸念点（町長）

（武居町長より資料 No. 1. 2. 3. 4 を説明。）

- ・ 昨年7月の地区別説明会でも触れましたが、川島小学校を「他校との統合の対象として検討すべき」とした背景は、ここ数年で、予想以上に加速化している全国的な少子化にあります。
- ・ 資料No.1「図表1-1-1」と書かれたカラー刷り資料の1頁をご覧ください。
- ・ 国立社会保障・人口問題研究所が平成29年に公表した、日本全体の人口ピラミッドの変化の様子です。
- ・ 少子化が進むことは、将来の親世代の人口が減ることであり、それがさらなる少子化につながる負の連鎖の関係がおわかりいただけだと思いますが、この傾向が5年間でさらに前倒しされています。
- ・ 6月3日に公表された、1人の女性が生涯に産む子どもの数を示す合計特殊出生率は、昨年・令和3年「1.30」と、6年連続低下、昭和22年の統計開始以来、過去4番目の低さ、出生数も81万1604人と過去最低という結果で、少子化が想定以上に進んでいます。
- ・ 国立社会保障・人口問題研究所による新たな将来人口の推計は、来年春に示されるとのことですが、先程の資料でお示しした平成29年の推計から下方修正されるのは必至とみられています。
- ・ さらに、「コロナでリモート移住」コロナをきっかけに都市部から地方への人口移動が進むのではとの期待もありましたが、東京では、今年1月に、9カ月ぶりの転入超過に転じてから以降、その状況が続いている状況で、地方への移住の動きは思うほど進んでいません。
- ・ 2頁は、同じ推計方法に基づく辰野町と川島区の人口予測です。
- ・ 3頁は、これまでの辰野町や上伊那地域の人口や出生数の推移、4頁は川島区における人口推移の資料です。
- ・ 3頁の下段のとおり、上伊那全体の出生者数は年々減少傾向にあり、町全体の昨年の出生者数は75人でした。
- ・ 移住政策については、川島地区では、これまでに地元関係者のご努力で一定の成果を上げていただきました。町としても、引き続き、川島地区をモデル地区として、移住政策に力を入れていく方針に変わりはありませんが、今後、日本全体で少子化が急加速する中、長期的に、町内への子育て世帯の移住が継続される見込みを立てることは無理があるという考えに至りました。

##### ②極小規模校における教育上の問題点・懸念点（教育長）

（宮澤教育長より資料 No. 5 を説明。）

本日は、川島小学校の統合に関わっての懇談会にご出席いただき、大変ありがとうございます。

川島小学校のあり方については、常にご心配頂いているところではありますが、町教育委員会では、平成27年12月18日の町教育委員会において、少子化に伴い、学校の適正規模・適正配置の検討が必要であるとし、翌28年1月23日、未就学の子どもを持つ川島区内の保護者13家庭との懇談会を開催したところから始まりました。

その後、総合教育会議において、学校の適正規模適正配置についての検討を始めることを確認、定例町議会で議会の予算の承認を受けて、具体的な検討に着手

し、10回の「あり方検討委員会」では、他市町村の事例に学んだり、町内全小中学校の視察を行ったりしながら、様々な角度からご意見を頂き、これからの社会で生き抜いて行くために求められる、学校における学びの集団規模として、おおむね10名という提言を取りまとめました。

以来、今日までかなりの時間が経過し、社会が大きく変化しました。コロナ禍と、それに伴うAIやICT機器の劇的な進歩も、この変化に拍車を掛けましたが、改めて、この急激に変化していく社会にあって、これからの子どもたちのことと、学校での学びを考えたとき、自ら課題を発見できる力を身に付け、自らその課題を解決していこうとする力を身に付ける、級友との対話を通しての幅広い意見や情報を得て、自分なりの答えを導き出す学びを行うためにも、学びの集団としての10名程度は、どうしても必要であるということです。

町長も述べていますが、町教育委員会も、川島小学校がダメな学校であるという考えは全く持ってはおりません。町内4小学校は総て良い学校です。しかし子どもの学ぶ環境という面からみますと、どうしても縦と横のつながりが必要であると考えています。

異年齢での関わりは子どもの心を豊かにします。一方で「学び」という観点で見ますと、同学年・同クラスの人数が10名程度の友だちがいることで、互いに異なった意見を出し合える、互いに共感できる、共にやり遂げる、時には互いに悩む、という学びが可能となります。このような学びを通して、子どもの心を豊かにしていきます。

その上で、そうは言っても、現に川島小学校で学んでいる子どもたちもおりますので、統合に関わっては、今学んでいる子どものこともしっかり考えて対応していかなければなりません。

## II 統合先の小学校

- 1 川島小学校の統合先は、辰野西小学校とします。

## III 統合に向けての今後の対応

- 1 現在、川島小学校に在籍している児童に対する対応

(1) 現在、川島小学校に入学している児童に対しては、最大限の配慮を行う。

- ① 子どもの教育環境が急激に変わることを避けるため、3年間の統合猶予を図り、この間は川島小学校にて通常の教育活動を推進する。

この期間中、

・児童の安定を図りながら、他校との交流活動を進めます。（「小集団と関わる」や、「大集団と関わる交流活動」を推進する）

・今まで通り、町内各小学校とオンラインによる交流活動を推進していく。その後は学校訪問を伴う交流活動の推進を図り、学年・学級の行事等の共同実施も検討している。

- ② 保護者とは、児童の統合後の就学先・統合後の配慮事項等の確認を行うため、懇談を続けていく。
- ③ 未就学児童をお持ちの保護者とも協議を進める。

(2) 統合後の具体的な配慮事項

- ① 町内在住者への配慮事項（特認校制度活用児童を含む）

・学校が存続している限り（統合される日まで）、現在の川島小学校での学びを保障していく。

- ・地理的状况をみれば統合先の小学校は、辰野西小学校を基本とする。
- ・統合先の辰野西小学校ではなく、町内の他の小学校を希望する場合、通学手段を含めて当該児童が小学校を卒業するまでの間、保障していく。
- ・通学手段とはスクールバス等の確保であり、通学に関わる保護者の経済的負担は求めない。
- ・統合後、町外の小学校を希望した場合は、当該家庭で対応していただく。

#### ② 町外から就学している児童への配慮事項

- ・川島小学校が存続している限り、現在の川島小学校での学びを継続して保障していく。
- ・統合により、辰野西小学校、あるいは町内の他の小学校への就学を希望した場合、当該児童が小学校を卒業するまでの期間、できる保障は行っていくが、その際は前提として町内に住所を移していただく。  
(西小学校ではなく、町内他の小学校を希望した場合も、住所地から小学校までの通学手段を含めて保障していく。)
- ・町内に住所を移さず、町外に住所を置いたまま町内の小学校への就学を希望する場合でも、町内の小学校への就学は認めていくが、現在と同様に保護者の責任において通学させるものとする。但し、小学校卒業の段階で町内に住所を移して辰野中学校に入学するか、町外の中学校に入学するかを判断していただく。
- ・町外の小学校を希望する場合は、当該家庭で対応していただく。

#### 2 統合決定後に川島小学校への入学を希望する児童が出た場合

- (1) 統合されるまでは川島小学校への入学を許可するが、統合した時点で基本的には統合小学校・辰野西小学校への就学となる。
- (2) 統合時点で、辰野西小学校以外への就学を希望した場合は、当該家庭の責任で通学していただく。

#### IV 統合後の就学についての配慮事項

- 1 スクールバスによる通学を基本とする。(通学に係るバス代等の保護者負担は求めない。)

#### V 川島区に住所を有し、現在辰野西小学校に通っている児童への配慮

- (1) 現在、川島区内には、8名の児童が辰野西小学校に通学しているが、スクールバスによる通学を基本とする。  
このことは、すでに実施済みで、毎日スクールバスに乗って、辰野西小学校に通学している児童もいる。
- (2) バスの発着場所・乗降者のバス停は、今後も保護者の希望を受けて、柔軟に対応して行く。
- (3) 通学手段の選択肢拡大の意味から、スクールバス以外に町バス乗車を希望する場合は、回数券を購入いただく。  
上島区・唐木沢区・今村区の児童がスクールバスに乗車する際も、7月からは無料としているが、町バスに乗車する際は、回数券を購入していただくことになる。

#### VI その他

- 1 町内各小学校の通学区指定は引き続き行うが、事情により指定就学校から他

の小学校に就学を希望する場合は、町教育委員会において弾力的に対応して行く。(現在でも弾力的に対応している)

- 2 町内小学校に、学校生活や学びに疲れたときに、一時的に避難し、通常のカリキュラムから離れた学び・生活ができる場所を開設する。町中間教室「わたげ」とのすみ分けを行う。  
(構想として、自然と関わる体験ができる場、ゆっくりとしたカリキュラムや振り返りの学び・学び直しの場等を想定している)

(2) 川島地区の活性化について～町が考える地域振興策の一例～  
(山田副町長より資料 No.6 を説明。)

皆さんこんばんは 副町長の山田勝己です。

私からは、川島地区の活性化について、町が考える地域振興策の一例について、ご説明申し上げます。

お手元の資料No.6 「令和4年度川島区における地域活性化の取り組みについて」に沿ってご説明いたします。なお時間の都合上概略のみ説明いたしますのでお許しください。

まずは、「1. 長野県移住モデル地区について」であります。

これは、地域住民と行政が一体となって、積極的に移住者の受け込み支援を行う事業で、平成30年に長野県の移住モデル地区に認定いただいて以降、今年4月から2期目として移住者の受け入れをさせていただいています。長野県には川島区の他4地区、全部で5地区が認定されています。

2つ目は、辰野町定住促進空き家改修等補助金の補助の引き上げであります。辰野町では空き家の改修また空き家の家財の片づけに補助金を出していますが、この川島区内については、改修30万円の上限を40万円に、家財片付けの上限15万円を20万円にそれぞれ引き上げて、川島区内の空き家の活用を図っているものであります。

3つ目は、川島区内にあります旧教員住宅について地元の皆様との協働により(DIY)改修させていただき移住者用住宅として貸出を行っています。4つ目は、川島地域新聞の発行であります。令和4年6月発行分で第30号を迎えます。この新聞は川島区だけでなく辰野町内の各区の皆様にも、広報たつの配布時に回覧させていただきます。

5つ目は、どろん田バレーボールイベントの開催であります。

令和3年度に実施した長野県事業の「つながり人口創出・拡大事業」のプロジェクトメンバーが以前行われていたこの地域の名物イベントを復活しようと取り組むものであります。来る24日の日曜日に開催されます。

6つ目は、日本福祉大学との連携であります。

町も交流連携協定を締結していますが、この大学との交流が一番されているのはこの川島地区の皆様です。学生のみなさんにとってはこの川島区が心のふるさとなっているのかなと思います。

また、裏面をご覧ください。

川島地区の地域活性化にあたり利用可能な主な補助制度についてご紹介いたします。

詳しく説明していると時間がかかりますのでいたしません。国や県の補助制度がどのように用意されています。川島地区の活性化のために知恵を出し、工夫をすればどれも活用できそうな事業ですので、今後区の役員の皆様とも協議・検討していきたいと思っております。

また、町からも協働のまちづくり支援金事業を申請団体に交付し、川島区内の事業を進めていただいています。

令和4年度は交付団体16団体中、3団体がこの川島区内の団体であり、総額91万7千円を交付させていただき予定です。

川島区の活性化のための事業の一例を紹介させていただきましたが、町も引き続き関係人口、つながり人口の創出を通じ、川島区の活性化の推進を進めていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

#### 4. 意見交換

##### 【Aさん】

今通っている子たちは川島小学校に関して肯定的な意見なんではないでしょうか。無くしてほしくないと言っているのではないのでしょうか。子どもたちの意見を尊重せず、大人の意見で無くすることですよね。多様性をすごく大事にしていらっしゃるようですが、人が少ない小学校を卒業したということも多様性だと思います。兄妹がすごく少ない世の中ですがクラス学年が違う人たちと学んで、少ないですけど友達と学んで育つということは大勢いる学校とは違った魅力なんじゃないかと思ひ、それだって多様性なんではないかと思ひます。これは質問というよりは自分の意見でございます。

##### 【宮澤教育長】

貴重な意見ありがとうございました。全校児童数10人で、縦の繋がりが非常に強いと町長も教育委員会も認識しております。そのような中で上級生が下級生の面倒を見るということもできるのは素晴らしいと思ひます。ですが、学校に行っている子どもたちの学びの観点では異年齢の縦の繋がりは非常に大事です。子どもの心を豊かにします。その一方で横の繋がりが、これがあって初めて学校なんだろうなということなんです。つまり、同学年の友達がやはり一定人以上いて、日々の学びなどにおいては自分で追究したものをみんなの前で発表していく、みんなの意見を聞いてさらに深めていくこういう共同の学びも大事になっていきます。ですので、今でている意見も十分に理解ができるんですが、その一方で、川島地区で生まれて育って川島小学校を選ばず辰野西小学校へ通われている児童も8人いるという事実もあります。辰野西小を選んだ子も川島の子どもたちなんです。これを考えるということは非常に難しい問題と思っております。

##### 【Aさん】

そうやって学校を選べるというのがいいなと思ひんですけども、それを選ばなくしてしまうのは乱暴なんじゃないか。知識のある方などが考えているんでしょうけど、残してほしいなと言う子どもたちの意見がある以上は、選択肢を無くしてしまう方に舵をとるのは乱暴かなと思ひるところでございます。

##### 【宮澤教育長】

先週の木曜日に川島小学校で授業参観をさせていただきました。1年生～6年生までの全学年授業参観させていただきました。当然学年1人の子がいますので1人で授業を受けていました。先生と子どもが1対1で授業しております。ある学年へ行くと4人の友達といてこれだけで全然授業が違うんですよね。大勢のところにいると自然と自分の意見を出す、そうすると周りも反応して自分の意見を出すなど友達同士のやり取りが4人でも生まれるんです。1人の場合には先生と1対1なので友達と深めていく。そして大人にはない多様な発想をしてくれる友達の意見を聞くという、その学びが厳しいという

ことなんですね。先日の授業参観をする中で改めて難しい問題だと感じました。4人でも子どもたちは、お互いに喜ぶ、情報交換をして深める授業ができる。以上です。

#### 【Bさん】

今日話を聞かせていただきまして、色々と説明をいただいたんですけど、事実を見てデータを見るということは大切だと思うんですけど、ただこの事実もどう思うかは人によって違うと思うんです。人口が減っていく、子どもの数も減っていく事実を見たときに減っていくならその事実に対応した政策が必要だなと思う人もいますし、減っていくなら増やそうと立ち上がる人もいます。今日私は期待をしてこちらに来たんですけども、何に期待してたかと、これから町がどういう方向にすすんでいくとか、その上でどういう教育の姿を町で描くとかその辺りの大きなビジョンの話聞けるんじゃないかなと期待を持って来たんですけども、それがイマイチ説明の中で見えなかったのが、失礼かもしれないんですけど残念で悲しい気持ちになったというのがあります。今保護者として不安なのが辰野町という大きな船に全町民が乗っていると思うんですけど、その船が今どこに向かっているのかが見えない。いきなり私たちの大切な子どもが通っている学校がなくなるっていう手段の話に来てしまっているのが不安がぬぐえないまま1年以上来てしまっている。その辺りなんのために学校を無くすとか、人口が減っていきますね、少子高齢化が進んでいくんですねとか、子どもももしかしたら6年後くらいには80人切っていく、そのことがわかっているならその80人を町としてどう育て上げていくのか1つの学校にまとめてしまって育てるのか、そうではなくて1人ひとりきちっと見てあげて、1人ひとり背負っていく人生があるので、数でみるだけじゃなくて、ちゃんとその子たちに適応した形で学校作るべきなのかとかそのあたりの大きな話を今日聞けるかと思っていたんです。そこが見えなかったということが1つ残念に思っている事です。もし、大枠の部分で町としてどう進んでいくとか教育をどうすべきとかその辺りのお考えがもし今日来ていただいているトップの方々になるのであればご自身の言葉で本心から語っていただけたらなと思います。

#### 【宮澤教育長】

子どもの数が減っていても子どもたちの教育というのは基本変わらないだろうと思うんですね。学校生活だけで完結するものではないので、学校生活が終わった後社会へ飛び出していくわけですね。実社会でやっていくための力というものを身に付けてもらわないといけないわけですね。これは小さい学校だろうと大きい学校だろうと町であろうと村であろうと変わらないと思うんですね。それが実は日本全体の教育が5年ほど前から考えさせられていることなんですけども、社会の変化があまりにも早く激しすぎる。その中で子どもたちは生きていかなければいけない。学校の教育方針も転換期を迎えているわけですけども、我々やお母さんお父さんが学んだ時は知識を得ればよかった。だけど今は、知識を得ただけじゃダメなんですね。その知識をいかに活用するかそういう力を求められている。それはどうやって身につくのか。それは今までの学習だけじゃダメなんですね。とにかく答えが見つからない、答えが定まらない、答えが1つじゃなく複数あるなど、そういう社会が現実問題おこってくる。それに対して自分なりに課題を見つけて、自分なりに解いて自分なりに導き出していかないとならない。こういうことを今せまられている。ですから文科省も大きく舵を切っています。知識をただ注入するだけではダメ、生きる力を身に付けてほしいということ。それに今までに3回の懇談会でも話をさせていただきましたけれども生きる力、生き抜いていく力を身に付けるだけではだめだと、やはり自他ともに命を大事にする、人を大事にする、自分を大事にするそれが大事だとこれも学んでいかないといけない。これは複数の友達で協力

協同しながら学んでいく中で時には喧嘩をしながら、時には切ない思いをしながら相手の心を理解したりどうしても必要になってくる。

辰野町の子どもたちの辰野で生まれ育った地元・郷土の愛する心をしっかり持ってほしい。卒業したら町で働いてほしいという願いもありますが、100人が100人そういうわけには絶対無理ですので、日本全体や世界を舞台に活躍する人がでていいわけですが、子ども自分が生まれ育った町が辰野町であるといったプライドをしっかりと持つ。あるいは柱として持ってほしい。

今言ったことは学校のことに関係なく大事にしていかなければいけないというふうには私は思っております。

### 【武居町長】

的を得た回答にならないかもしれませんが、お話を聞いてですね私もお話したいことがございます。昨年の川島地区における懇談会でも話をしましたし、また同じ話じゃないと言われるかもしれませんが、私の気持ちを固めた話をさせていただきたいと思います。

川島小の存続について向き合った時にですね、3~4年前ですけども川島小で学んでいる子どもたち、それに教えている先生方、それを支えている地域の皆さん、これが理想形ではないかなという気もしております、なんとか残したい、そのためにはどうしたらよいか模索させていただきました。川島小の問題と向き合ってますね、自分自身がどういう教育を受けてきたかということも振り返っていました。私は辰野の小学校中学校、また高校大学と教育を受けてきましたけど、いまだに毎年同級会をするのが中学校のあるクラスの同級会でございます。もうみんないい歳ですので卒業から40年50年とたっていますが、出てくる話が運動会の話だったり遠足の話、音楽会の話など誰一人自分個人の思い出を語らないんです。やはり他愛もない話思い出話をして、すべてが同じクラスで学んだ仲間のそういう思い出で今も頑張っている。自分自身でもその空間の中にいて思ったのが、友達同級生の存在が本当にいいもんだなと思ったしだいです。皆さんにも親友と呼べる人っていらっしゃると思うんですが、私も小学生時代の親友がいますし、中学校時代にも親友がいますし、高校も大学も本当にずっと私という人間を理解してくれて困った時には助けてくれる、励ましあってくれる、本当に兄妹以上の付き合いも未だにしております。その一方でこういう人間とは合わないなっていう人もやはり小学校時代からいるんですよ。いじわるされたりとか運動もできて上から見下ろされたりですね、話すこと1つ1つにカチンときたり、そういう友達も中にはいましたけれど、そういう友達に対しても何らかの対応しているそんな自分もいたんですよ。社会にできれば好きな人もなんか合わない人もいっぱいいて、そういうことが教育課程の中で知らず知らずのうちに訓練されていたのかなと思いました。その上で親友なんていなくてもいいという考え方もあると思います。それはそれでいいんですけど、私自身としては本当に人生が豊かになったなと感じております。人生に諦めるような場面もいっぱいあったんですけど、その時私を助けてくれたのは、親でもなければ先生でもありません。私の親友が助けてくれました。そういった親友との出会いを作っていくにはどうしたらよいかと考えたときに、今の川島小はしっかりやっています。ただ、不安を感じるのが、横の仲間がいた時、同世代同年齢とは別の価値観というのが生じると思うんですよ。その層を子どもにあげるのが私たち大人の責任ではないかなという考えで結論に至った次第です。

### 【Bさん】

今までお伺いした話もありましたし、今日改めてお伺いした話もありお二人の価値観をよく理解できたと思います。その上でなんですけど、なんで私がこのようなビジョン

とか考えを聞いたがるのかなと私自身でも考えてみたところ、今日持って来たんですが以前去年の7月頃町長さんが私案として問題となってしまったキャンパス化構想が書かれた資料を全部読ませていただいたんですが、これを見た時とても感動したんですよ。ここに書かれているビジョンって、私も今NPOを作って居場所づくりをしていますけれども、ここに書いてあるビジョンは私の考えとすごくマッチした部分があったのですごく感動しました。ここに書かれていたのが誰も取り残さないそういったビジョンでそういった価値観で町長さんはこれを書かれたと思うんですけど、これが本心だとしたら私はとても嬉しくて、この町に来てよかったなと心から思ったんですけど、その後残念ながら私案とともにキャンパス化自体が急だったのでびっくりしてしまった人も多かったと思いますし、確かに色々な面からみても難しい手段だったかもしれません。でも、誰も取り残さないっていう考え自体はとても素晴らしいと思うんです。ですが、この考えがキャンパス化と一緒になくなってしまって、これまでの議論の中で1度もこの話が出てこなかったというのがすごく残念だし悲しいことだなと思ったんです。なので、本心がどこにあるのか、町長さんの本心がどこにあるのかとかその後の議論の中でここに書かれたことって1度も出てこないということがあったので一体どこにあるのだろうかということがずっと引っかかってたということもあって改めて聞かせていただきました。こちらに書かれたものっていうのはお考えとしてはないんでしょうか。

#### 【武居町長】

自分自身も構想を打ち出したことについては、神経が磨り減るほど悩み抜いた末ではありますけれど、案を出した後にですね、貴重なご意見をたくさんいただきました。まず、結論としましてはたまたまコロナが蔓延し始めてしまって、安定してないのに大きな改革っていうのは、正しいのかはわかりませんが今提案すべきではないと。今小学校あるいは保育園の子どもたちを守るには今の体制をしっかりと維持していくことが、命に係わる事態ですのでその構想は一切下げました。ただ1つわかってもらいたいのは他の構想の中にも子どもたち1人ひとりのことを考えて、色々な資料も読ませていただいた。勉強すればするほど答えが見つからなくなってしまったんですけど。その中でやはり世の中の教育制度は複雑であるし、1人の子どもをどう育てていくか、その中でとても申し訳ないですけど、ある方が教育という漢字2文字という講演をされていましたね。これも考え方の1つだなと思いました。教育の教という字は日本語で教える、英語でいうとeducationといいますよね。これは最大の能力を引き出すという意味でも使われるらしいですね。日本語でいう教育の教という字は教える。子どもたちに色々な知識であったり、教育の育にも実はさっき私が話したことに繋がるんですけど、はぐくむとってそこにはその人の周りのみんなの中で自然と育っていく。その「育っていく」ですが、はぐくまれて育っていくという言葉に私はすごく影響されて、教えて下さる先生がいて親がいる、地域の方がいる、その一方で自分たちの仲間の中ではぐくまれて育っていく。これが合致した時、どんな時も崩れない大人になっていくのではないかと私自身感じましたのでそこを大事にしていきたい。さっきの同級会の話に直結するんですけど、横の繋がりがこれでいいのかと思ったときにその部分を強くしていく、その必要性があるのではないのかという考えに至った次第でございます。キャンパス化構想についてはですね、色々なご意見をいただいたわけですけども、あまりにも予算的な面でも計算が甘かったり、全てにおいてあまりにもずさんだという厳しいご意見もありましたので、私の研究不足ということで一旦下ろさせていただきます。

#### 【Bさん】

キャンパス化自体のお話じゃなくて、キャンパス化を考える背景にあった町長さんの

誰一人取り残さないといった価値観がもうないのかという意味でした。なので、キャンパス化がどうなるかということよりも、町長さんの中にその思いはないのかという質問だったのでそこは切り離していただきたいと思いました。

#### 【Cさん】

今のBさんの質問に関連してなんですけど、キャンパス化構想の撤回をしたということと川島小学校の統廃合に繋がっているところが今ひとつわからず聞きたい。それから今日の資料の4を見て県に20校ある極小規模校が逆にこんなにあるんだなどおもったのと、今後この学校がどうなっていくかわかりませんが、私はこれだけあるんだっていうことでこういう学校を大事にしていける県であってほしい。もう1点なんですけども、今日こうやって住民の要望で会を開いていただいことはありがたいですが、やっぱり時期がですね、町としては結論を出してからやるということにもう参加してもしようがないんじゃないという意見もありましたし、統合に向けてこれも一つの既成事実になるんだよねという意見もあったというのもご理解いただければと思います。

#### 【武居町長】

キャンパス化を撤回してすぐ統廃合っていう直結した考えではなくてですね、一旦そこで整理をして、フラットに考えたときにさっき言ったとおり1人ひとりをどう生かしていくか、育てていくかと考え、私も一度原点に立った時には育てていく環境、それに私自身の教育観の価値観もあるだろうし、そこらへんが統廃合に向けて川島小の横の数が少ないという環境だけは私は何とか。今いる環境をもっと良くすることを大きくしていきたいなとそこらへんから今に至った次第でございます。ご理解いただきたいと思います。

#### 【Dさん】

初めのうちは町長は統廃合は考えてないということで話をしていましたが、キャンパス化構想を引っ込めたあたりから意見が少しずつ変わりましたね。去年の地区別の話の時もまだ何も考えていませんみたいな、白紙状態なんですよみたいなことを言っていました、何回か保護者とか人と説明する場を設けてそれで少しずつ統廃合の方へ話をうまく持っていったんだなとも思います。例えば、地域の将来のために統廃合は必要なのか。今日もご意見を聞くと川島地区の活性化とどのような整合性があるのか、矛盾した意見ではないのか強く感じます。地域のみんなは小学校があるということにかなり精神的に重きを置いています。学校がある限り川島は魅力的だといってこちらに住所を移して来る若いお父さんやお母さんが学校なしでどうやって川島地区を活性化させていくのか。老人だけがどうやって頑張っていくのか。その辺のところは町はどう考えているのか。いつも話してて変だなと思うことは、先ほど教育長が言われた川島地区で生まれた8人の子どもが町の方の小学校に行くということはあたかも川島小学校が好きでないと嫌だとかそういったニュアンスで西小を選んだみたいな言い方をしますが、元はと言えば保育園を無くしたことから起こったことだと思っております。川島に保育園があればそのまま川島小に行けた子達が行けなくなった理由はやはり川島に保育園がないからなんです。保育園を無くし、学校を無くしそして廃村になっていく。こういう道順がよくわかります。それから町長が同級生のことを言っていますが私は48人くらいの同級生がいましたが60年間1度も同級会などはありません。それはその人の心の問題で他の人が同級生がいたからよかったとかそういうのを決めつけるものじゃないので、この統廃合に関しても、今現在の町長と教育長の教育委員会の大人の発想の統廃合だと何回聞いても思います。もう少し、意見があって受け止めるつもりがあるならば、このよう

な住民には説明したぞ、さああとは議会だぞと言って、みえみえのやり方が私にはとっても嫌です。それで質問ですが小学校を廃校にして地域の活性化を図るといふのをどのようにして具体的に図るのかそこを教えてください。

#### 【山田副町長】

町長の説明にもありました移住施策についてはですね、川島地区のこれまで地元関係者のご努力で受け継がれてきました。本当にありがたく思っております。町としても引き続き川島地区というモデル地区に力を入れていくのに変わりはないわけです。ただ、コロナ禍の影響で田舎の移住希望者が増えたとはいえ、都会の人がこの辰野町の名前を知って移住するかというのは難しく、特に今は全国すべての田舎にこういった町村が移住者を受け入れている。色々な施策をもっている中で、中々辰野町というところを選んでもらうことが難しくなっているのかなと感じております。移住者が増えること自体が地域の活性化に結び付くだけではないので、私はですねこの川島地区には若者を引き付ける何か魅力的なことがあるのかなとすごく感じています。例えば、DIYによる空き家の改修もそうですが、長野県で川島の動きを注目してまして、信州つなぐラボといった事業を辰野町で提携してまして、色んな事業を行っています。どろん田バレートかですねこの一環で行っていますし、また民間仲介業のエアビーアンドビーの方たちともですね、大変川島地区の取り組みに注目してまして、協力していただいております。今度ゲストハウスで川島地区と小野地区で全部で3軒できるということで、川島地区のですね、動きに対しては注目されています。今回の移住施策とか地域活性化とかですね、小学校と切り離しているのは、私は小学校の問題は教育長や町長が言っているように学びの場として提供していて、そういう結論が出ているのかなと思っております。地域活性化と小学校を並行していくのは中々難しさがでてくるのかなと感じていますので、あくまでも子どもの学びの場として将来を考えた時にこういう結論になったのかなと思っております。

#### 【Dさん】

やはりそれでは、おかしいんじゃないんですか。若者が関心を持って来てくれているのに、その人達がここで家庭を持った時に、子どもができて学校があるということは大きな魅力だと思うんですけど、そういった魅力を削っていった場所に彼らが作った魅力を住民たちは今度関りを持たずにいるわけでそれだけで活性化になっているかという、ほとんどの住民はわかっていない。川島全体がどのように活性化するかということにはならないと思います。やはり人が入ってくるというのは、単独ではなく家族がいたりして、その家族に子どもができればやはり学校にあげる、なのでそういうのをなくしてしまったら魅力が半減し、やっぱり学校が近くの方がいいねとなるのではないのでしょうか。これを切り離したことで自体が矛盾していると思います。学校が遠いということは子どもにとって結構つらいことなんです。私も小学校は川島でしたが、中学は辰野中学でスクールバスで通いました。しかし、生徒会の役員とか色々なことが放課後活動がなにもできない3年間でした。スクールバスに乗り遅れると普通のバスに乗るのに大変苦労しました。職員室に行って、先生に頭を下げてそしてチケットをもらってという経験が、30代くらいまでバスに乗り遅れたと言って飛び起きるみたいな強い思い出だったと思います。学校に近い人にはわからない経験ですけども、こういうところから西小の方へ通うとなると、子ども達は学校が終わったらすぐ帰るって生活になると思って、私の昔の経験を小学生のうちからするのかっていうような思いです。周りに人がいるからいいとそれだけの理由で大きい学校に子どもをやるその考が私にはできません。

【Eさん】

今の意見と関係しているけれど、副町長が地域計画と学校の問題は別にするという話がありましたが、どうやって地域計画とずっと続いてきた川島小学校を切り離すということができるのでしょうか。

【山田副町長】

地域計画といえますか地域活性化と川島小の問題というのは、確かに言われるように切り離せない問題なのかもしれません。だけど、小学校のあり方、子どもたちのあり方、学びの場を考えた時にどうしてもそっちの方を優先しなければいけなかったという話があります。私もですね言葉にして話すのは大変難しくして申し訳ないんですけど、あり方検討委員会が3年前に検討されてきた中であつたのは、やはり子ども達のことを考えてそういった結論がでてきていると思うんですよね。それを今回どうしても教育長も町長も尊重したことだと思います。

【Eさん】

地域の計画が教育だけでなく学校だけではなく、総合的に小学校含めて、子どもたちの教育含めて、地域にどういう影響をするのか、総合的に検討しながら方向を出していくというのが本来のやり方ですよね。だから、本来住民の意見をまず聞いてそれからそれを反映したような形であり方検討委員会で川島小学校をどうしようかと、今日人口問題の話を出していただいたんですが、こういう資料をだしてもらって将来こんなふうになったら大変なことになります。皆さんどうしようという提案をしてもらって、ああしようこうしようとできないのか。みんなで勉強しながらできることできないことを整理してやるべき。やってダメだったらしょうがないですけど、それをそういうことをしないで出口を決めといて今日まで来てるんですよね、それじゃダメなんです。都会から田舎にとというのも取り込むだけの努力をして、ダメならしょうがないけどやるべき努力をする。そのためには住民の皆さんにも説明をして協力してもらおう。確かに15年20年たったらどうなるか半分になってしまう、もう駄目だと言われるんです。ネガティブに考えるとそうですね。でも逆手にとったらどうなるか。半分空き家が空く。だったらそこに若い人たちに来てもらって、できたら保育園も作って来てもらおう。20年たったら100軒に若い人がくれば家族も合わせたら200人になるじゃないですか。1年間に3世帯ずつ受け入れて行けば10年たてば30世帯。そんな難しい話じゃない。副町長どうですか。地域おこし協力隊にそういう話してみましたか。どうですか。

【山田副町長】

まず、断っておきたいのは私は移住施策を諦めたとかそのような言い方をしたつもりはありません。もし、そういうふうに関心なら訂正をさせていただきます。施策はこれからも続けていきます。いまでもですね全体的にその流れがあるんですけどどの市町村も移住施策には力を入れているんですね。その中で辰野町っていうところを選んでもらうには努力が必要だと。そのためには、辰野町を知ってもらう事業を進めていますよっていう説明をさせていただきました。それが信州つなぐラボという県の事業も辰野町に注目されていて一緒にやっています。これをやることによって例えば、川島地区に若い人たちが何人も来て、色々な取り組みを始めています。そこからその繋がりができていくというところを重点的にやっています。それは移住定住にも繋がっていくと思いますし、将来その中で辰野町を好きになっていく人達がいるのでないかなと思います。決して諦めたとかではないですし、これからも一緒に協力してやっていければと思っています。

【E さん】

そういうことであれば、まさに川島小学校は宝になる認識はありませんか。

【山田副町長】

先ほど言った通り、今回のこの決定については、子どもたちの学びの場を考えた時の結論ですのでそれ以上のことは私からは申し上げられません。

【E さん】

それではですね、今日は実際何人か川島小学校の環境があって移住してきた人もいるわけですから、そういう方の声をぜひ聴いてもらいたいと思います。

【F さん】

自分たちが移住してきたのは、川島小学校があるからなんです。辰野町は各学校で給食を作っている。これは素晴らしいことだと思います。本当に子どもたちのことを考えている。また、この小規模校が残っている辰野町はなんて子どもたちのことを考えているんだろう。そう思って移住してきました。それで廃校問題が立ち上がった時に、自分が立ち上がったのは自分の子どものためでした。でもそれは、最初だけでした。こんなに時間を取られて、夫婦で参加して、家で子どもだけで夕飯を食べてそれでも僕がここに立って話しているのは、自分たちの子どもだけではなく、川島小学校があることによって学校に 5 年間行けなかった子が学校が好きになり、学校に通えるようになった。学校が抱えている問題によって、傷ついた子どもが立ち直っていくさまをありありと目の当たりにしたことによって、教育が抱えている解決できない問題に対して向き合っている学校がここに存在している。教育というものを本当に考えてくれている町長がいらっしゃる。誰よりも苦しめることが痛いほど伝わってきています。ホームページ上に移住者が出ていました。彼らはみんな川島小があって、そこに子どもを通わせたくて、ここに移住してきました。希望を持ってここにやってきました。希望を与えてもらおうなんか思ってなかったんですよ。希望を持つために、自分たちが一緒になって動こうと思って動いてきたんですよ。それは今でも続いていると思います。川島小を残すためにモデル地区の文言に地域に小学校があることと書いてありました。それを僕たちが見つけてモデル地区にすれば、小学校は存続できるのではないかと、そう考えて区に申請して下さいとお願いしました。モデル地区であるかぎり川島小は存続できると考えました。甘かったです。解釈はどうにでも変えられるんですね。通える学校があればそういうふうに解釈が変わりました。すみません、感情的になってしまって、僕たちは希望を持ってやってきました。こんな小規模校を残している地域が他になかったんですよ、日本中探しても。なんて人を大事にしてるだろうと。学校ごと給食を作り、なんて子どもたちのことを考えているんだろう。希望があったんです。でもその希望が立ち消えたので、ホームページに載って辰野町の素晴らしさを発信していた家族は別の所へ引っ越していきました。今移住する人の 1 番の目的は子どもたちの教育です。今説明していただきました。もちろん色々決まったあとですけど。ここから希望を見出すことはとても難しいです。最初は本当に自分の子どものためでしたけど、ここの教育の素晴らしさを知ってしまったので発言しています。ここには教育を求めてくる人が僕には見当たらないです。辰野町は人を呼ぶのが難しいと言っていますけれど、僕は見つけて来たんです。求めている人たちはたくさんいます。この 3 年間辰野町で登校拒否のお子さんはいなかったでしょうか。ぜひ、自分たちがしている今まで残してきた川島小を、各学校で給食を作る辰野町。素晴らしいことをしてきたんです。だから僕は引っ越してきたし、これからも素晴らしいってことはなんなのか問い続けて、素晴らしい教育というものを見して

いただきたいと願っております。

**【Gさん】**

先ほど副町長さんが、あり方検討委員会の結論に沿って決められたみたいなことを言っていましたけれど、確かに10回の委員会をうけて提言され、教育委員会の中でも考えて出したと思うんですけど、その提言をもっと検討して練ってということはされたのでしょうか。有識者の意見は間違っていないんですけども、さらに専門家の意見は聞かれたのかという思いがあります。

**【宮澤教育長】**

あり方検討委員会の委員は全部で20名で構成されていました。その中には、学校の先生やPTA、地区の代表それから議員もいました。今言われた有識者はどういう人をさすかわからないんですけども、その時にも有識者の方を2人入れています。その方がいけなかったと私は思っておりません。

**【Gさん】**

私もそこは否定しませんが、その点をさらに小規模とかでやっている教育交換とか色々な学者さんがいるとおもうんですけどそういう方々の意見も聞いてみるってことをせず決まったんじゃないかなと思いが残念だと私は思います。そこにずっと、とらわれ来てしまっている町の姿勢がと思っております。

**【Hさん】**

町長さんが同級生の話をしていましたけれど、スクールバスで行くことになるのと放課後友達と帰ることもできないし、近所の子とも遊ぶこともできない。なので、町長さんが思われている、小学校時代の友達の思い出というのはやはり同じようにはならないと思う。やはり、歩いて登下校していける範囲に友達がいるっていうそういうベースがあって初めてそういう関係になっていくんだと思うので、大きい学校に入れたからいいってことにはならないと思います。今までの経過を見ていると、住民町民の意見をですね、本当に反映されているのかどうかということ。辰野町の人口って何番目でしたかね。確か長野県の中でも33位くらいなんですよね。その前後にあるのって～村とか町レベルではなくて村とかと同じレベルで、全国的に落ちていると教育委員会の方はおっしゃいましたけど辰野町は断トツで落ちているんですよね。多分若い人が住みたくないのではないかと思うんですよね。なんで住みたくないかと言ったら、自分たちの意見が反映されていない。こういうシステムの中でやっていくとはならないんじゃないかと。ど真ん中会議とかやっているとは思いますが、町の意見にならないような事実は取り扱われないだったりとか、意見を聞くという格好は見せるんですけど、本当に若い人からの意見を聞いて反映させていきたいということではないんですよね。そういうのが問題だと思います。今回も保護者とか反対していても、川島児童館の時みたいに同じ流れです。10年前と同じようなやり方でそのような町に将来を任せられないんじゃないかと思えます。明石の市長さんが子どもにお金を使うことを1番大事にしているとおっしゃって、国会でも取り上げられましたけども、少子化対策ですとかであれば子育て世代の意見を反映させてほしいし、小学校の問題も町民の意見を聞いて川島小学校だけの問題じゃない、辰野町の役割として川島小をどうにかしていかなければいけないと言うならば、どういう学校を求めているのか住民の意見を聞いてもらえば、お話する機会になっていくんじゃないか、隣に流出しないんじゃないかと思えます。なので、辰野町の行政の意思決定には住民が不在なんじゃないかとそれを今回まのあたりしたんじゃないかと思

ます。平出保育園のこともそうですけどビジョンがわからないんですね。ニーズが少なくなってきたから学校を減らしましょうとか、平出保育園もニーズが減ったから無くしましょうとか、どんどん減らしていった辰野町に住みたいのか、住みたくないですよ。このまま減らしていくならどんな教育をしようとかかそういう考えもないままだと、未来に希望も持てない町に住んでいくのかと。例えば、川島小学校をつぶしてポジティブな施策や未来が描けているのか。まとめると町民の意見が不在ってことです。もう、1点は川島小学校を存続した場合のプランっていうのも描けると思うんですよ。川島の子どもの数は改善してきている。川島小を無くした場合に辰野町のプランでなんの未来があるのか全然わからないんですけど。教えていただきたいです。

#### 【山田副町長】

1点目について話をさせていただきたいと思いますが、今回のこの決定についてはあくまでも3年前の辰野町立小中学校あり方に関する提言書については、先ほど教育長も言いました、辰野町あり方検討委員会という委員会の中で協議をされてきたものになります。決して町民の意見を聞いていないとかじゃなくて、そういう方たちが集まって方向性を見つけていただいたということでもあります。ただそれが3年間という町長が申したチャレンジ期間があったものですからそこから始まったと思われていますが、3年前に出た結論をもう1回振り返ってやろうとしていることでもありますので、よく言われるのが川島小学校だけを議論しているのではなくて、町全体の小学校の議論をして下さいと言うんですけど、それについて3年前に行ってきた結論を元にやっているということにご理解をいただければと思います。

#### 【宮澤教育長】

非常に難しい問題だなと思います。川島小学校を統合した後の展望ということなんですけど、子どもの学び今よりも格段によくなる、横の繋がりができるということこれに尽きるんだと思います。もう1つは、スクールバスの関係で非常に切ない思いをしたというそんな部分もあったわけなんですけども、これについてはそういうこともあるんだと改めて教えていただきました。実は先ほどの川島に住所があって西小に通っている子どもを持つ保護者と懇談をした際に、うちの子はこれを楽しみにしてるんだと話してくれました。それはまさに今言われた、下校で友達と話して帰るのがとても楽しいということで、今まではスクールバスに乗るということをしてなかったもので、家庭が送迎をしてたわけですね。西小までは絶対迎えにはいかない。だいたいその手前の町民会館や役場のちょっと離れたところで子どもを拾うということで、その間友達と話すと。わずか200mくらいの話なんですけど、これが非常に楽しいという話をお聞きしました。そんなことを考えるといかにスクールバスとかじゃなくて個人に配慮したスクールバスが必要だとかの話がありました。

#### 【山田副町長】

存続した場合の未来、川島小が統合した時の未来について、これも言葉にするのは難しいと思います。人それぞれの考え方もあると思いますし、中々候補を1つに決定するのは悩む問題と思っております。

#### 【Eさん】

この資料の川島区の人口水準のところですけど、資料の年齢別14歳以下のR1年～若い人たちのパーセントが上がってきています。こういう傾向は他の地区でありますか。

**【加藤総務課長】**

データ自体持っていないので申し上げられませんが、逆に数字を見ていただくとこの理由ってわかるかなと思っています。単純に例えば R2 と R3 を比較すると確かにパーセントは上がってはいるんですが、人数自体は変わっていないんです。なので、この短期間だけ見ると全体的に人数が少ないということがありますので、短期間の傾向だけで見ると危険かなと思います。ただ、地区のデータは持っていないので、改めて確認をして報告させていただきたいと思います。人数の増えているところが川島だけかって言われると決してそういうことではなかったと思います。

**【E さん】**

これをネガティブにマイナスイメージで評価するのか、ポジティブなところを評価するのは町長の考え次第ですけど、私は確かに人口減少で老人化している中で亡くなっていく人が多いんだけど、その中で若い人たちを受け入れて行けば全体数は変わらないかもしれないんですが、地域が若返っていく。現に若返っている。全体数は減ってるんだけど地域は若返っている。このことをやっていけば地域の持続性が働いていくんじゃないですか。どうですか。こういうところを見ていきながら計画を練っていけば持続可能な可能性があると思うんです。

**【G さん】**

教育委員会の作った資料 No. 5 なんですけども、その他の 2 番目に町内小学校に生活できる場所は 1 か所開設するとあってその下にカッコ書きであります、ここら辺の検討されている具体的なお話を聞かせていただきと思います。

**【宮澤教育長】**

先ほども少し触れましたけども、ちょっと疲れちゃった、エネルギーがわからないという子どもたちが一時避難的な場所を作っていこうということなんです。完全に学校に来れなくなってしまうんじゃなくて、そこまでいく前に通常の学級の生活から離れた所で生活をする。あるいはゆっくり生活をするようなそんな所なんです。実際には中々学びの場と言いますか休息の場というのはあまりない。最近試みとして始めているところもあるわけですけども、ですので通常の教育カリキュラムとはまったく別のカリキュラムを作ってやっていきたいと思いますということになります。現在辰野町にはございませんのでこれを機にどこかに 1 か所と考えています。ここで場所をお話することはできませんけど、具体的に検討はしています。この話は具体的に詰めていきます。ただこれはカリキュラムや内容については個々によって変わっていますのでこれについて話はできません。

**【G さん】**

今日色々な質問や話をした人がいましたけれど、受け答え側のきちっとした答えが得られなかった。それに対して希望を与えることも出てこなく非常に残念な会になってしまった。私の方からは以上です。

**【H さん】**

町民の意見が反映されていない。それについて話し合いも持たれていなくてそれに代わるものがあり方検討委員会というような認識だったと思うんですけど、この問題について話し合いたい人が話し合える場を開いていただきたいと思います。今日皆さんも話せなかったと思うので。この話について先ほど難しい問題だとおっしゃってて、小澤町議さんが議会で言ったことは、保護者は誰もお願いしていないので、きちっと話し合っ

ていきたいと思うので設定をしてください。

**【加藤総務課長】**

様々なご意見いただきましたので、私共の方で一旦持ち帰らせていただいて、今後についての意見をお聞きする方法を区ともご相談させていただいて、改めてお知らせさせていただきたいと思います。

5. 閉会（地元区長）

**【地元区長】**

大変ご苦勞様でした。町長はじめとして今日の会議を開いていただきありがとうございました。地元地区の皆さん、保護者の方につきましては足元が悪い中、ご足勞いただきました。この問題については区内でも話してきましたし、地元の皆さんとも話してきて、大変難しい点があるかと思えます。今加藤課長さんからお話がありましたように今後の皆さんの意見を聴取しながら意見をまとめていけるような会議をきめ細やかに作っていけるようそんな風に希望しながら今日の会を閉じさせていただきます。大変ご苦勞様でした。